

看取り士と言う  
自宅で看取れるこ  
とを知り、大きな  
安堵感と人のやさ  
しさ、温かさを感  
じました。



↑監督の長谷川ひろ子さん

稻刈りが始まつたと  
同時に、雨が降り続き  
鬼怒川が氾濫しました。  
ようやく晴れて田んぼ  
も乾いたので稻刈りを  
始めました。

なかなか農家だけでは食べていけ  
ず、主人は会社員で、今年から息子  
も運送会社に働きに出ましたが、稻  
刈りだけはお休みさせていただき、  
手伝つてもらつています。

今、稻刈り機はコンピューターで  
操作され、刈つた稻は脱穀して、叢

稻刈りが始まつたと  
同時に、雨が降り続き  
鬼怒川が氾濫しました。  
ようやく晴れて田んぼ  
も乾いたので稻刈りを

9月8日に開催された看取りドキュメンタリー映画「いきたひ／家族で看取る」上映会と生演奏トーク会に参加して私の意識が変わりました。今は病院で死を迎えるのが当たり前と考えていましたが、祖父、祖母の時代は家で家族が看守る中で息を引き取ったことを思い出しました。いつの間にか時代に流れされ大切なことを忘れていました。映画を見て、

ありがとうございます



田んぼのあ  
ぜ道に一斉に  
曼珠沙華が真  
赤な花を咲か  
せ、毎年彼岸  
の訪れを知ら  
せてくれます。



そろそろ秋のお彼岸だねと言いながらお墓の掃除をして、母と一緒に祖母から教わったおはぎ、五目ちらし、おだんごとお供え物を作ります。家で取れた小豆を粒あんにしたおはぎは、ご先祖さまも家族も大好物なのでたくさん作ります。

子供の頃、彼岸花と呼び田んぼのへりに真っ赤な帯の様に咲いた花をかんざしにして頭に着けて遊んでいた事を思い出しました。花が終わると緑の葉っぱが出てきてすごくきれいで。毎年お彼岸を知ってくれてありがとうございます。

●曼珠沙華にありがとう

になり、箱に入り、乾燥機に入り、もみすりして出来上がりです。便利になりましたが、水害にあつた田んぼは機械では出来ず、手で刈りますが、腰を曲げて続いているので、腰が痛くなり長くできません。あきらめようかと思いましたが、春から育てたことを思うとあきらめることはできず、自然の怖さを思い知らされています。

現役時代は、小さな子ども達や若い世代を指導してきたが、今や私もシニア世代。いつしか若い世代に色々と教えてもらい、世話になることが多い日々である。

たとえば週に数回行く近所のマツサージ治療院では若い整体師たちが、地域の人達の肩や腰をもみ、話しこそ手になっていていつも元気で明るい雰囲気だ。



突然、近所の友人から電話があり、「息子が亡くなつたよ。」と電話の向こうでやりきれない悲しさに「どうしたんだよ。」と言葉がつまってしましました。息子さんをよく知つてゐるだけに、なぜという思ひがつのり悲しみが込み上げてきました。



いい曲をありがとう

茨城県/M・G

また、パソコン教室でも手元がおぼつかないシニア世代を懇切丁寧に指導しているのは若い世代のインストラクターである。習う方がなかなか長続きしないのかいつの間にか顔ぶれが変わっているのが気がかりだが、私は新しい機器の扱いに慣れるとため数年通い続けている。自宅でもやることは多いが些細なことに戸惑い時間を無駄にするので、身近に何でも聞ける教室が貴重である。

毎月通う美容院も若い男女の美容師が丁寧に私の髪を洗い染めカットし整えてくれる。至福の一時である。

お通夜、告別式と過ぎ、私も明日のお祭りの準備に追わされていましたが、友人から区民まつりに息子が作詞作曲した曲を会場に流してもらえないかと頼まれ、急なことで実行員会にかける時間もなく、周りの人には事情を話し、当日かけてさせていただきました。

音楽で会場の雰囲気も盛り上がり反響も良く、秋晴れの青空に天高く曲が流れ、家族の思いは和らぎました。いい曲をありがとう。

少子高齢化の進むこの時代、若い世代の負担は今後益々、私的にも公的にも増えてゆくであろう。我々シニアは自分の身近にいてくれる、家族ではないこうした各分野の専門家の若い世代にも感謝しつつ、世代を越え対話し交流しつつ豊かな日々を過ごしたいものである。

